

水彩画教室 「銚子の渡し舟」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この絵を描きながら 幼い頃に訪れた銚子の旅を思い出していました 利根川河口の広い水面をゆっくり進む渡し舟は まだ子どもだった私には小さな船でありながら大きな冒険の乗り物のように感じられました 棧橋で待つ人々の姿や潮の香り 船が残していく白い航跡まで 今も心の中に鮮やかに残っています やがて時代は移り 銚子と波崎を結ぶ交通の主役は立派な橋へと変わりました 現在は二代目の銚子大橋が千葉県と茨城県を力強く結び かつての渡し舟は歴史の一頁となっています それでも水面を渡る船影には 人や町をつなぎ続けた温かな記憶が宿っているように思えます この絵には そんな懐かしい風景への感謝の気持ちを込めました



これが完成した絵です



1、空と川の色は ちがう青を使います



2、主題の渡し舟の船先 「渡し舟」については立派な船でした



3、水面への反映は 白のパステルを使いました



4、棧橋の杭の反映は「黒い波」の重なりで表現します



5、少し古風な服装の子どもたち 渡し舟に手を振る



6、リュックを背負った男性 視線は渡し舟に